

令和6年度第2回小金井市長期計画審議会 次第

日時 令和6年7月22日（月）午前10時から

場所 小金井市役所本庁舎3階第一会議室

- 1 グループワークについて
 - (1) ヒアリングについて
 - 第1グループ：都市計画課、地域安全課
 - 第2グループ：こども家庭センター、庶務課
 - (2) 長期計画審議会コメントの検討について
- 2 グループワークでの検討結果について
- 3 その他

■配布資料

資料1 ヒアリングについて

資料2 令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案

ヒアリングについて

第1グループ

1 ヒアリング部署及び施策

	部署	施策
7月22日 10:00 第一会議室	都市計画課	施策4 市街地の整備
	地域安全課	施策8 危機管理体制の構築
	地域安全課	施策9 地域の安全・安心の向上

2 主な質問項目（前回のまとめ）

<施策4>

- ・「小金井らしい魅力的な市街地」の「小金井らしさ」とは、何を残して何を作るのか教えてください。
- ・まちづくりの将来像が何か教えてください。
- ・指標2（駅周辺整備の進捗率）が前年度と比較して、あまり伸びていませんが、現在の進捗状況や課題を教えてください。
- ・メディアを通じて、市長のメッセージを発信する等、市民へのアピールが必要と考えますが、情報発信の仕方について教えてください。

<施策8>

- ・共助の強化に向けた具体的な取組及び方向性について教えてください。また、共助の強化は地域安全課だけでは難しい課題であると思われるが、他部署、他団体と連携した取組があれば教えてください。

<施策9>

- ・指標2（犯罪発生件数）について、年代や地域、時間帯等の細かい分析はできているのか教えてください。

ヒアリングについて

第2グループ

1 ヒアリング部署及び施策

	部署	施策
7月22日 10:00 第一会議室	こども家庭センター	施策13 子育て家庭の支援
	庶務課	施策16 学校環境の整備

2 主な質問項目（前回のまとめ）

<施策13>

- ・こども家庭センターの役割について教えてください。

<施策16>

- ・小中学校トイレの様式化率の目標が100%ではない理由を教えてください。
- ・指標2（学校施設の長寿命化計画の達成率）について、実績が分からない理由を教えてください。
- ・トイレ以外の学校環境の整備状況について教えてください。また、学校施設のバリアフリー化の進捗状況を教えてください。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
1	環境と都市基盤	1 みどりと水の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化サポーターは順調に推移していると評価。 ・市民の参加を課題としているが、美化サポーターに参加できない市民の関わり、意見の救い上げが必要と感じた。 ・上記に関連して、今後の担い手、若い世代の参加、美化サポーターに限らない多様な関わり方の受け口を創出いただきたい。 ・公園環境美化サポーターの登録者数の増加は評価できる。アンケート結果が下がっており、目標値である80%の達成に向け、どのように取り組むのかを検討すべき。 ・指標1の割合は普段目に付く民地も含めた取り組みが必要と考えられる。生け垣造成の補助要件の緩和も効果的かもしれないが、各家庭でもう少し手軽にできる方法はないのか。例えば緑のカーテンの普及では「目指す姿」とは異なるか。指標2は目標に達しているが、「適当な人数」があると思うのでその中で内容の充実を図っていただきたい。
		2 循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆずる輪をはじめとした施策実施の効果の共有と目標の設定が必要。施策がどの程度目標に影響しているのか繋がりが見えずらい。 ・事業者が出している推移の内訳を市民と一緒に追っていく必要があると感じた(「事業系ごみ」の指標化など)。 ・指標1、2が目標を達成できているのは高く評価できる。市民だけでなく、事業者が出している、いわゆる「事業系ごみ」についても目を向け、循環型社会の実現に取り組んでいただきたい。 ・市民のごみに対する意識が高いため、より具体的なごみの削減方法を例示することが必要ではないか。レジ袋の有料化によりマイバッグを使用する市民は増加したと思う。マイボトル、マイ箸についてはまだ改善する余地があるように感じる。
		3 環境保全の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動がすすみ、一律に減らすことだけを指標としていることに違和感を感じる。エアコンの設定温度を無闇に上げることなどにつながらないか懸念がある。 ・他の政策、課を問わず全体に共通するが、目標とアクションが一致せずチグハグな施策が打たれている印象。 ・指標2は当初から増えている状況だが、公共施設数や当初目標設定時とは、気候変動の影響で状況が変わっていると思われる。温室効果ガスを減らすだけが指標でよいのか、上記の変動要因などを考慮し、省エネに取り組んでいただきたい。 ・省エネチャレンジ事業は面白い取り組みでありその結果報告や参加者の感想は指標1にとっても重要な情報であるが、これを市民が目にする機会が少ないのではないかと。もっと有効な活用を期待したい。
		4 市街地の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「小金井らしい」について、何を残して何をしないのかを明確にする必要があると感じる。狭い市内敷地に限られたリソース(人や予算)の中で全ての市民を満足させることははや不可能(例えば限られた道幅で車の快適な通行と歩行者の安全の両立は難しい)と感じており、行政としての難しさは想像できるが市としてどの方向に進むのかを決め明確にメッセージを打ち出すべきだと感じた。 ・駅周辺の進捗が思ったほど上がっていない。巻き返すための施策や狙いがあるのか。何が課題なのか。令和7年まで待つではなく、時系列に合わせて細かく目標を設定し、実現進捗を市民と共有して追っていく必要があると感じた。 ・駅周辺の進捗が0.5%の増加のみであるが、令和7年度に目標達成ができるよう取り組みを期待する。 ・市民が主体となったまちづくりを、どのようにして想定する「小金井らしさ」に繋げるかが課題にならないか。
		5 住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・都市農地は工夫が求められるため、他市の取り組みなど外に参考を求める動きが求められる。 ・指標1は漠然とした質問のため対策が難しいと感じる。その他指標は補助金予算に大きく左右されると思われるが、補助金以外の部分でも目標達成に向けて進めていただきたい。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
1	環境と都市基盤	6 都市インフラの整備	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1は主体がだれかによって数字が変わると感じた。丸めてとってしまうのではなく、属性(車、歩行者など)によって分けることで取るべき施策が明確になると感じた。 ・他でも共通するが設定した指標が漠然としているため、具体的なアクション(いちご橋の取り組みなど)が指標に紐づいている(ひいては街がよくなっている)イメージが持ちづらいと感じた。 ・指標3の進捗率に変動がなかったが、令和7年に目標達成に向けての取り組みを期待する。 ・指標1、2の目標達成には、道路の管理・補修を行うだけでは感じられないと思われる。例えば補修現場にその補修の必要性や方法を掲示することで、市民の道路管理に対する意識を変えられないか。
		7 交通環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・施策4と共通するが、狭い道幅の中で「だれもが」掲げた方針だと達成できないと感じる。車社会からどう転換するのか(やらないことの明確化)、車社会としての利便性を追求するのかの意思決定が求められる。 ・交通事故死傷者数の分析、改善。年齢層や場所、時間帯などの検証が必要と感じる。 ・啓蒙にも限界がある。検証し、時間別の交通規制など車両規制などの対策が必要と感じる。 ・施策としてレンタルサイクルを増やすのであれば、それに合わせた自転車専用レーンなどの環境整備(車と並走して危なくない距離が保てるかも含め)が求められると感じた。 ・交通事故死傷者数の年齢層や場所、時間帯などの検証・分析を行い、具体的な改善につなげていただきたい。 ・指標1の対策は道路の死角を減らすことが手っ取り早い対策の一つではないか。カーブミラーの新設だけでなく、カーブミラーが障害物で見づらい、適切な方向を向いていない等の改善も効果が出ると思われる。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
1	2 地域と経済	8 危機管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・前提である共助が弱くなってきている中で、他の課との連携は具体的にどう動いているのかが気になりました。 ・上記に関連して施策8を独立して考えるのは難しいため、どのように目標を達成するのか縦割りを超え小金井市行政全体をリードする動きが求められると感じた。 ・指標1の減少と指標3が伸び悩んでいるように見受けられるため、様々な危機に強いまちの実現に向けて各団体等と連携した取り組みを強化していただきたい。 ・災害のイメージが現実的にできることで意識改革が進むと思われるため、想定される被害や体験談などをより多く取り入れることで指標1、2の自発的な改善を期待できないか。
		9 地域の安全・安心の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・指標の対象が漠然としているので、評価が難しいと感じた。期間を決めてターゲットを明確にすることで取るべきアクションが効果的になると思われる。例えば、指標3の場合、若年層を狙うならば学校向けに施策を行えば数値が増えるのではないか。一方で中間層の場合は別の施策を検討する必要があるなど取るべきアクションが分岐していく。 ・犯罪発生件数について年齢層や地域、内容等の検証・分析を行い、未然防止などの具体的な取り組みにつなげていただきたい。 ・小学生に限らず防犯ブザーを携帯する取り組みが各指標の改善に繋がらないか。自動通話録音機が固定電話用のものであれば、今後は携帯電話での対策も強化するべきと感じる。
		10 産業・観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・道草市のキッチンカーなどテストマーケティングは小さい取り組みだが評価できると感じた。 ・閉店やシャッターが目立つ商店街に新しい事業者を呼び込むなど活性化に繋げる施策がより充実すると良いと感じた。 ・指標1の、まちに活気を感じていない市民の分析を進めていただきたい。イベントだけでなく日常のまちの様子を変える必要があるのではないか。個店の活性化がまちの活気に直結すると思われる。
		11 都市農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1について、7割は率直に高い水準と感じているので、どのような施策が影響しているかがわかると評価しやすいと感じた(他市と比較して高いか目標として妥当かを検討・共有いただきたい)。 ・学校給食など消費規模が大きい機会を確保することは重要であるため、農家と学校等を繋ぐコーディネートを検討していただきたい。 ・農業者数、農地面積が減少する中で指標2を目標値まで上昇させることは困難と思われるが、様々な取り組みを進めていることは感じられる。様々な視点から新たな取り組みも進めていただきたい。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
2	子どもと教育	12 子どもの育ちの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1は減少したものの、取り組み内容と課題のとらえ方は妥当と感じる。引き続き改善に向けた取り組みを推進していただきたい。 ・判断指標に基づいた自己評価ができています。次年度の施策に評価結果をいかし、更なる改善を期待する。 ・指標1の実績が下がり続けていることが懸念である。「子どもが育ちやすい環境」の解釈が、人それぞれ違う可能性があり、市が実施している取組の方向性と一致しているか不明。市民が期待する「子どもが育ちやすい環境」がどういものなのかは分析済みなのか。次回はアンケートの文言ももう少し具体的に変えてはどうか。 ・子ども自身が主体的に動いていくきっかけとして、オンブズパーソン相談室の本格的な稼働に加えて、出前授業の実施やホームページの公開等の取組みに期待したい。 ・中高生の居場所について、聞き取りの結果を反映した内容での新たな取り組みや支援を期待したい。 ・三つの指標のうち二つの指標が若干下がっていることが「一部の成果が上がっている」とするのはいかがか。「一定の成果が上がっている」で良いのではないか。「子ども自身が主体的に取り組む体験」の質が重要で、このような企画のもとで、安全担保の観点から実は子どもの自由度をしばっており、難しいと思われるが、主体性を損なわない質の高い取り組みがほしい。 ・指標1について、これをどのような要因が規定しているのか検討が必要。回答者の属性(年齢、子育て中かどうかなど)によっても回答傾向に違いがあるのではないか。
		13 子育て家庭の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・指標値は低水準かつ改善の見込みが感じられない。各課の取り組みがなぜ成果につながらないか、要因分析をまずすべき。 ・課題が抽象的すぎる。自己評価においても事実を述べているだけであり、現状の分析ができていないように見受けられる。子育て支援はある程度、都での取り組みが進んでいる。小金井市ならではの課題を抽出し、施策に落とし込まなければ指標も伸びないのではないか。 ・課題が抽象的で具体的な案に欠けているように見える。こども家庭センターが設置されたことで、今後より具体的な課題の洗い出しと取組に期待する。 ・施策13の課題を網羅していると思われる新設のこども家庭センターの評価に注視したい。 ・小金井市における「保育所問題」に関わる施策はここでの施策であろう。突発的に発生した問題ではなく、長期的な行政としての悩みの結果として、一見突発的に現れたものと推察される。施策ではこの件について全く触れていない。「認可外保育施設」の上乗せに関わらせ、この問題に触れるべきであろう。「見込んだ成果が上がっていない」は行政としての厳しい判断である。その背景に触れてほしい。保育問題は同じ土壌から生まれたのではないか。 ・指標1は総括にあるように経済状況の影響が大きいのでは。ここで評価することになじむのかどうか。
		14 子育て・子育て環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・目標値はほぼ横ばいの変化であり、各課の取り組み(協議会の運営とポスター発表)が課題改善(指標値向上)にほとんど貢献できていない印象。目標達成に向けた意味のある取り組みを実施し、目標達成をイメージできる報告書にしてほしい。 ・課題に基づいた方向性がとられている。子どもの意見を反映した、子育て・子育て環境の充実を目指すことを期待する。 ・子どもの意見聴取は大事なとは言ってもないが、それが課題の全てではないはず。引き続き地域全体としての子育て環境の充実や、子育てする側が安心して子育てできる環境の促進につながる課題も出していただきたい。 ・子育て・子育て支援ネットワーク協議会への加入数が119団体にも上っていることは小金井市の大きな財産であり、課題となる子どもの意見聴取にも極めて有効なのではないか。 ・「一部の成果が上がっている」はアンケートの結果という量的な評価より、市内の大学の活用の取り組みの不十分さにあるように思える。その意味で図らずも行政の評価と私の評価は一致する。大学に敷居は一見高いし、事実、大学事務局はこれ以上仕事を増やしたくないという防御反応から実際に敷居が高いところがある。しかし、教員レベルは現場で教育している立場から、行政と大学の「子育て・子育て環境の充実」には心から賛同しているはずである。 ・指標1は施策12と重複する部分があるように思う。指標の整理が必要では。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
2	子どもと教育	15 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各指標は参考値としても(全国調査のため)、取り組み内容と目標達成への具体的イメージと、課題のとらえ方はある程度確立しているものとする。引き続き、課題を正しく捉え、具体的なアクションを継続して実施していただきたい。 ・課題で上げられている教員の働き方の改善について、直接的な判断指標となるものがないが、学校教育において喫緊の課題であることは間違えないので重点的に取り組んでいただくことを期待する。 ・多様な事業を柔軟に素早く行っていることが見て取れ、とても評価できる。昨今学校教育における課題は多岐に渡るが、冷静に分析され、具体的な取組に活かされている。指標2の微減が続いている点については、自己評価に記載されている通り、改善に向けて動いていただきたい。 ・令和5年度の施策評価コメントに示したコミュニティー・スクール化の促進について触れられていないのは残念である。 ・ディスレクシア(読み書き障害)の生徒が各小中学校にいるが、先生の理解が足りないという声を耳にする。課題にも書いてあるように個別最適化された教育との両立を期待したい。 ・「いじめ」が実質的になく、従って顕在化すらしなことが事実であろうと信じたい。とするとこれは大きく評価したい。この施策では「いじめ」という暗い表現の逆の表現である「笑顔」や「わくわく」という言葉で統括されている。これで実体を真に表しているとするか。
		16 学校環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・指標値は一定の向上が見られ、取り組みの効果があると思う。一方、具体的に取り組んでいる小中学校のトイレの洋式化については、市民アンケートでも強く上がっている課題ではあるものの、指標に設定しておらず、次年度の目標値80%が達成可能な値を設定しているにすぎない印象。洋式化と洋便器化の文言も曖昧である。市民が関心を寄せる課題であるため、対策の具体的プランを提示し、子供たちのより良い学校環境の構築に着実に努めていただきたい。 ・トイレの整備が全面的に打ち出されているように見受けられるが、判断指標におかれていない。また指標2については重要な判断指標であるはずが指標として機能していない。実施状況について見える化する必要性を感じる。 ・トイレ環境の向上が進んでいるのがわかるが、その他の修繕や建て替えの進捗についても施策評価に入れてはどうか。 ・「トイレ」は重要であるが、その他の学校環境で取り組むことはないか。教育長が小金井桜を学校のグラウンドにと意気込んでいるようだが、これも重要な学校環境整備であり、少しスポットライトを浴びせてはどうか。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
2	4 文化と生涯学習	17 芸術文化の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井ならではの文化を起点に、さまざまな取り組みが実現できていることが成果につながっているものとする。引き続き目標達成に向け取り組みを継続していただきたい。また、取り組み内容が美術に関する芸術が中心であるため、音楽、芸能といった幅広い芸術分野も視野に、事業を展開して欲しい。 ・課題に基づいた方向性がとられている。市民の声も反映しながら施策を進めていくことを期待する。 ・施策17の成果評価は難しいものの、指標1、2ともに達成率が順調に増加している点は評価して良い。 ・まちの「品格」はその地域の文化が支えている。美術館だけを文化の担い手とするのではなく、市民にこの文化的取り組みのPRをしてみてはどうか。掘り起こすまでもなく、多くの文化的市民活動もあり、ケーブルテレビなどと協力して文化振興のための取り組みの紹介をしてみてはどうか。
		18 国際交流・都市間交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交流事業への参加人数が増えていることは評価できるが、年間の累計人数であるならばこの人数が妥当な数なのかは検証が必要ではないか。また参加者の世代別人数の分析をしながら、どの層に向けたイベント展開をするのかも含めたイベントの再検討も視野に入れてほしい。 ・休止していた事業が再開され、指標1、2共に実績が改善したことは評価できる。国際交流、他自治体との交流機会の拡大とともに、市民へのより積極的な情報発信も期待する。 ・都市間交流事業には小金井市を端緒とする川崎平右衛門顕彰会の成功事例もある。また、SNS等を通じた情報発信では観光まちおこし協会に期待できる。 ・スマートホンのSNSは個人放送局を可能にした。富士山とコンビニ、迷惑防止で黒い幕を張らざるを得ない状況があるようであるが、このような状況を踏まえ、個人ベースでの来訪者が小金井の紹介をしたくなるスポットを作り、個人ベースでの国際交流も積極的に考えてもいい状況ではないか。
		19 人権・平和・男女共同参画の尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・課題が一般的な内容に偏っており、市としての課題なのかが見えない。指標の改善も0.5%未満であり、これを改善と評していいのか疑問である。 ・小学生、中学生を含む若年層へ向けての授業や教員研修は、将来に向けた継続的な啓発として非常に重要であると考え、これからも継続して取り組んでいただきたい。 ・地道な啓発活動の継続こそが肝要だが、各指標とも順調に推移していることは喜ばしい。 ・人権という言葉から連想されるのがマイノリティである。考えようによっては実は個人個人すべての人がマイノリティかもしれない。そしてそのように思っているひとは無批判にマジョリティに迎合しないという意味で尊敬に値する。「マイノリティ」の言葉自体がすでに「人権」という概念に対置しているようにも思う。こんな視点もあっても良いのでは。 ・指標2について。アンケートがたずねている内容が施策の対象として適切なのか再考の余地があるように思う。例えば男女平等意識が高まれば高まるほど日常生活における不平等に気づきやすくなるだろう。
		20 生涯学習の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にあげられている適正管理においては次期「生涯学習推進計画」にも含まれるのか。課題が反映された施策が展開されることを期待する。 ・指標1の実績が上昇し、目標値に達したことは大変評価できる。引き続き生涯学習推進計画の推進と、次年度の施策としてあげられている、学校と地域、社会教育団体や大学等の教育機関がつながる仕組みの構築に期待する。施設の老朽化については具体的な対応策が必要と考える。 ・13の地域学校協働活動の推進を通じて、地域と学校、大学、団体等との連携を深めていくことを期待したい。公民館等公共施設の老朽化対策は一部では着手されているものの、かなり急がれるのではないか。 ・団体で取り組むことだけが生涯学習とは思えない。個人個人が見えないが生涯学習に取り組んでほしい。これは砂浜の一粒の砂のようであるが、事例としてその一粒を取り上げ行政で光を当ててみてはと思う。
21 スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に基づいた方向性がとられている。適切な運営体制を維持しながらスポーツ環境の拡充を進めていくことを期待する。 ・総合学院テクノスカレッジ、メガロス武蔵小金井との連携協定により、少ない市内運動施設をカバーしている取組みは評価しても良い。 ・小金井の野球少年チームは優れた成果を出していると思うが、彼らの練習場所は確保できているのだろうか。 ・アンケートの取り方によって数値が大きく変わってしまうのは望ましくない。工夫が必要だと思う。 		

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
2	5 福祉と健康	22 福祉のまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取り組みとしても計画の策定と窓口事業の実施にとどまっている。次年度は具体的な取り組みにも着手し、地域の包括的な支援体制に取り組んでほしい。また次年度にあげているDX活用についても研究にとどまらず、実施可能な取り組みについては積極的に展開してもらいたい。 ・地域での重層的支援体制整備に向かう第一歩として、福祉総合相談窓口事業の更なる充実に期待したい。 ・自己評価で「今後は、世代や属性を超えた交流の場や居場所を整備する地域づくりの充実が必要である。」とあるが具体的にどのように充実を図っていくのか示して施策につなげてほしい。 ・評価は適正である。 ・地域で助け合える関係が低調である点に懸念を感じる。
		23 高齢者の生きがいの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のデジタルデバйд解消のための事業といった有意義な取り組みがなされていたが、判断指標に直接的に評価できる項目がない。ICT化が進む世の中でも高齢者が生きにくさを感じずに生きていける施策は重点的に取り組むべきであり、判断指標で達成率を追っていくべきではなかろうか。 ・2025年には団塊の世代が全て後期高齢者となる超高齢社会を迎える一方で、80歳をもって社会活動から引退する傾向にある。フレイル前の後期高齢者の生きがいとは何かを考え直す必要があるかと思料している。 ・高齢者の居場所をまとめた冊子に男女比を入れることが、男性の社会参加を促すことになるのか疑問である。 ・重い腰の高齢者とりわけ男性高齢者を引っ張り出すのは容易ではない。しかし彼らのスキルと誇りを活かすプロジェクトはありうる。そこに生き甲斐を感じれば喜んで参加すると思う。
		24 高齢者が暮らし続ける仕組みの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にあげられている事項が次年度の施策の方向性にも含まれているのか。事業計画を判断指標の結果に基づき微修正を加えながら進めてもらえることを期待する。 ・事業自体が多岐に亘るため、介護家族支援、認知症施策に重点を絞らざるを得ないが、地域包括支援センターが圧倒的業務量に疲弊しないか懸念している。 ・自助、共助、公助のバランスがこの施策のポイントであろう。 ・指標1について、数値は年々下がっており、令和5年は当初数値を下回っている。「着実に目標に向かって」いるというのは無理があるのでは。
		25 障がい者福祉の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に基づいた方向性がとられている。次年度も方向性に示された施策を展開することで更なる改善があることを期待する。 ・指標1、2ともに、大幅な改善ではないものの、着実に個々の取り組みの成果が上がってきているように思える。引き続き市民の理解促進のための方策は検討いただきたい。 ・地域生活支援拠点等整備を始め、障がい者を対象とする福祉事業は着実に進捗している点は高く評価できるが、地域で共に支え合う障がいのない健常者への啓発活動も必要ではないか。 ・指標1についてはたしかに前年度より上がっているが、その前の年度までには達していない。障がいについての理解がないと共生社会実現にむけては難しいと思うので、さらなる理解促進を期待したい。 ・指標2の「暮らしやすい」を掘り下げれば、利便性が高いことが暮らしやすい必要条件ではあるが、十分条件ではない。生きとし活きる者にとって、誇りややりがいもあってそれを実行するなかで暮らしたいのでは。
		26 健康の維持・増進	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にあげられている指標低下原因の分析がなされていないように見受けられる。そのためか次年度の施策の方向性にも反映されていない。健診にとどまらず、食育についても検討してもらいたい。 ・食費も高騰する最中、食育への啓発活動の重要性は増している。加えて、子ども食堂事業のなかに独居高齢者対策も包含してもらいたい。 ・この施策は切実であるからこそ各指標は高いアンケート結果であろう。この取り組みが継続されることに意味があるのでは。 ・指標1について、数値は年々下がっており、その下がり幅も大きくなっている。令和5年は前年に比して6.5ポイントの低下であり「若干下降」ではなく大幅下降ではないか(当初数値をも下回っている)。低下の理由につき踏み込んだ分析が必要。

令和6年度施策評価の長期計画審議会コメント案シート

グループ	政策	施策	長期計画審議会委員の評価(案)
1	6 行政運営	27 市民参加・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・若者を市政に取り込む動きは評価できる。さらに他の施策との連携、地域のつながり、地域貢献等、モチベーションを発揮しやすい取り組みを他市を参考に実施していただきたい。 ・協働提案制度の市からのテーマについて肩透かしを食った印象を持った。ブラックボックスな行政の課題や業務を棚卸して市民に共有していただきたい。 ・指標1の数値が目標達成まで乖離している状況であるため、若者等サイレント層の取り組みや参加しやすい環境をつくるなど、強く力を入れて取り組む必要がある。 ・指標の「まちづくりに参加」や「地域活動に参加」と聞くとハードルが高く感じる市民が少なくないと思う。日々の生活や活動が「まちづくり」や「市民活動」の一端になっていることもあるので、そこに気付いてもらうことが指標の改善に繋がる。
		28 積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・LINEに登録しているが、タイムリーに情報配信されており評価できる。今起こっている出来事の文脈がわかりづらいのでより知りたい市民向けに情報の蓄積と整理が求められる。 ・指標にLINEの登録数を追加し追っていただきたい。 ・IT活用したボランティアなどに積極的な市民もいるため、オープンデータとしてCSVなど機械判別可能な形で情報公開いただきたい。 ・指標2の増加は評価できる、新たにスタートしたLINEの登録数をKPIとしてもよい。 ・指標1の「入手できない」原因は「探しづらい」との分析だが、「情報不足」や「内容が複雑」等の様々な可能性もふまえて対策を進めていただきたい。
		29 計画的な行財政運営	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を巻き込んだPDCAの取り組みが行われたこと自体は評価できる。 ・一方での課においても、質の高いアクションに繋げるためのPDCAの回し方自体を理解し実行できていないと感じている(アンケートを指標にする場合は慎重に設定する、施策につながるよう指標を分解する、PDCAを回す前に市民側の評価者と指標のすり合わせを行うなど)。 ・PDCAの目標設定や振り返りなどの回し方について、少なくとも各課リーダーは専門家のレクチャーや伴走を受けるなどを通じて理解を深めていただく必要があると感じた。 ・指標2の達成率は目標に対し乖離しているため、強く力を入れて取り組む必要がある。